

公表施設における自己評価結果

事業所名		公表日 2026/5/29				
ドーナラボひやごん						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・利用定員に対して十分なスペースが確保できている。また活動内容に応じてレイアウトを変更したりすることもある。 ・児童が安全に過ごせる十分なスペースを確保できている。必要に応じて個室の提供も行える体制を常に取っている。 ・定員数とスペースについては特に問題なく適切である。 	活動内容や利用人数によっては、一時的に室内が賑やかになる場面もあるため、空間の使い分けや座席配置等を工夫しながら、児童一人ひとりが安心して過ごせる環境づくりを継続していく必要がある。 今後も児童の特性や活動内容に応じて、集中しやすい環境設定や安全面への配慮を継続して行っていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて個別対応もしたりすることができると適切な配置であると思う。 ・児童の療育に十分な配置がされている。イレギュラーなことにも対応できるよう他施設からの職員配置もスムーズに行える。 ・基本定員数に加配の人員配置を行っている。また非常勤も配置されているため、急な職員の不在でも臨機応変に対応できる配置としている。 	利用児童の特性やその日の状況によっては個別対応が必要となる場面もあるため、引き続き職員間で連携を図りながら柔軟な支援体制を維持していく必要がある。 今後も安全面や支援の質を確保できるよう、職員配置や役割分担について継続的に見直しを行っていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児童が1日の活動の流れを理解しやすいよう表記したり、音や明るさなどを通して活動の切り替えを促すなど工夫している。 ・主にオープンスペースとなっており自由に過ごせる空間が多く場所を選ばず好きなことを安心できる場所で過ごせるようになっている。バリアフリーに関しては小さな段差があり、つまづく可能性がある部分があるため改善が必要。 ・生活空間については、特性に応じた環境となっている。バリアフリーについて、トレイは配慮が必要であるが、構造上の問題により改善が難しい状況である。 	バリアフリー面について、一部小さな段差や構造上配慮が必要な箇所があるため、安全面に留意しながら環境整備を継続していく必要がある。 児童一人ひとりの特性や感覚面に配慮しながら、より分かりやすく安心して過ごせる環境づくりについて継続して検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日清掃を行い清潔に安心して過ごせるよう努力している。また落ち着いてゆっくり過ごしたりボードゲームなどで交流を行えるスペースもあり活動がしやすいと思う。 ・毎日清掃を行い清潔を保っている。ボードゲーム等も児童が手に取りやすい場所に配置しているため活動もスムーズである。 ・毎日の清掃と、子どもたちが安心して活動ができるような空間となっている 	活動内容や利用状況に応じて、より快適に過ごせる空間づくりや環境設定について継続して見直しを行っていく必要がある。 今後も清潔な環境維持に努めながら、児童一人ひとりが安心して活動できる空間づくりを継続していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・静かな所で活動したい、宿題に取り組みたいなど利用児童の希望や状況に応じて個別の部屋などで活動を行うことができる環境が整っている。 ・必要に応じてすぐに個室を提供できるよう努めている。児童の状況や特性に応じて個室を開放している。 ・個別の状況に応じて、相談室の開放などを行い、子どもたちが安心して活動に取り組める環境となっている 	利用児童の状況や特性によっては、個別空間の利用が重なる場合もあるため、引き続き環境調整や空間の使い分けについて工夫していく必要がある。 今後も児童一人ひとりが安心して気持ちを落ち着けたり、集中して活動に取り組める環境づくりに努めていく。

業 務 改 善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングなどを通して課題や改善案について職員から意見を求めたりしながら業務改善に向けて進めている。 ・役員の方で行われているが従業員が参画することは少ない。 ・業務改善については適宜話し合いを設けているが、状況により話し合いに参加できない職員もいたりなどもあり、広く参画しているとは言い切れない。改善が必要。 	業務改善に関する話し合いや情報共有は適宜行っているが、勤務状況等により全職員が十分に参加できない場合もあるため、より多くの職員が参画しやすい体制づくりが必要である。今後もミーティング方法や情報共有の工夫を行いながら、職員全体で継続的に業務改善へ取り組める環境づくりに努めていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け評価表での意向等については全職員で内容を把握しどのように改善していくか考え、その後の業務改善に繋げている。 ・保護者への評価については、意向等を確認しつつ、改善に向けて話し合いを行なっている。 ・毎年度評価を取り的確に情報を公開できている。総括として改善点をピックアップし意識付くよう努める。 	保護者様からいただいたご意見については職員間で共有しているが、改善内容や対応状況について継続的に振り返る体制をより充実させていく必要がある。今後も保護者様のご意見を業務改善につなげられるよう、情報共有や改善後の確認を継続して行っていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の情報共有やミーティング等を利用し職員間で意見を出し合い業務改善に努めている。 ・意見があれば管理者へ伝えられる環境ができています。 ・定期的なミーティング等を行い、職員の意見等が聞ける場を設け、業務改善に向けて話し合いを行なっている。 	職員間で意見交換を行う機会は設けているが、勤務時間や担当業務の都合により、全職員が十分に参加できない場合もあるため、情報共有方法等の工夫が必要である。今後も職員が意見を出しやすい環境づくりを継続し、業務改善につなげられる体制強化に努めていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価や保護者アンケート等を通して課題整理を行い、業務改善につなげられるよう努めている。 ・外部からの意見や評価も参考にしながら、支援の質向上に向けた振り返りを行っている。 	現在、第三者による外部評価は実施できていないため、今後の導入について検討していく必要がある。客観的な視点を業務改善へ活かせるよう、外部評価や第三者からの助言等を取り入れる体制づくりが課題である。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修を実施するとともに、外部研修の情報共有を行い、職員が受講できる機会を設けている。 ・必要な研修については法人全体でも受講できる体制を整え、職員の資質向上に努めている。 ・定期的に研修案内を共有し、支援に必要な知識や対応力の向上につながるよう取り組んでいる。 	研修機会は確保されているが、勤務状況等により参加が難しい場合もあるため、より参加しやすい体制づくりや情報共有方法の工夫が必要である。今後も職員一人ひとりが継続的に学べるよう、研修内容や受講機会の充実に努めていく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・支援プログラムはホームページへ公表、事業所内に掲示されている。 ・事業所内、HP内でも掲載し誰でも閲覧できるようになっている。 ・法人全体で内容確認し、支援プログラムを適切に作成、公表している 公表場所はホームページや事業所掲示などで対応 	支援プログラムは公表しているが、保護者様へ内容や目的がより分かりやすく伝わるよう、周知方法や説明の工夫を継続して行っていく必要がある。今後も支援内容の見直しを行いながら、実際の支援との整合性を確認し、分かりやすい情報発信に努めていく。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員として児童のニーズや課題については日々の支援で気づいたことを共有している。 ・児童のニーズについては支援中の気づきを共有分析し、保護者の要望も含めた計画書作成を行うことができています。 ・子どもや保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で計画書の作成を行なっている。 	日々の支援や保護者様からの情報共有を通してアセスメントを行っているが、児童の成長や状況変化に応じた継続的な見直しをより丁寧に行っていく必要がある。今後も職員間での情報共有や共通理解を深めながら、より客観的で一貫性のある支援計画作成に努めていく。

13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で情報共有しながら児童にとってどのような支援が良いのか検討している。 ・子ども支援に関わる職員の意見をもとに計画書の作成を行なっている 	情報共有や支援検討は行えているが、勤務状況等により全職員で十分に検討を行うことが難しい場合もあるため、より情報共有しやすい体制づくりが必要である。 今後も児童の最善の利益を第一に考え、職員間で共通理解を深めながら支援計画作成に努めていく。
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書は共有されており、いつでも確認できるようになっている。また支援方法については必要に応じて話し合いを行っている。 ・いつでも確認できるよう常に開放されている。必要に応じて支援方法の検討も行われている。 ・計画書作成後は必ず目を通すようにしている。また、いつでも閲覧できる状態にしている。 	計画書の共有は行えているが、勤務状況等により職員間での理解度に差が出ないよう、継続的な情報共有や確認体制の強化が必要である。 今後も支援内容について共通理解を深めながら、計画に沿った一貫性のある支援に努めていく。
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化されたツールなどは利用していないが日々の行動観察により気になった児童の状況は情報共有し確認している。 ・支援記録や児童の関わりの中で得た情報を共有し分析、保護者の要望と照らし合わせながら確認することができている。 ・標準化されたアセスメントを使用するよう心がけている 	現在は日々の行動観察や事業所独自のアセスメントを中心に行っているため、必要に応じて標準化されたアセスメントツールの活用についても検討していく必要がある。 今後も児童一人ひとりの状況をより客観的に把握できるよう、アセスメント方法の充実に努めていく。
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に応じて適切で具体的な支援内容が設定されている。 ・各児童にあった具体的な支援内容が設定されている。 ・子どもの支援に必要な項目を適切に設定した内容にしている 	児童一人ひとりに応じた具体的な支援内容の設定は行えているが、「家族支援」「移行支援」「地域連携」の視点については、より継続的に意識しながら支援計画へ反映していく必要がある。 今後もガイドラインに基づき、児童や家庭の状況に応じた具体的に分かりやすい支援内容の設定に努めていく。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングなどで話し合いを持ちながら利用児童が興味を持ちそうな活動プログラムをチームで立案している。 ・随時行っている。議事録となるメモも適宜行え閲覧できるようにしている。 ・ドリルチームや合同イベントについてチームで立案を行なっている 	活動プログラムについてチームで話し合いを行っているが、勤務状況等により全職員が十分に参加できない場合もあるため、情報共有方法や意見集約の工夫が必要である。 今後も児童の興味関心や特性に応じた活動内容を継続して検討し、職員間で協力しながらプログラム立案に努めていく。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分で活動を選択できるようにしたり、学休日などには外出支援を計画したりするなど工夫している。 ・児童のニーズや直接意見をもらい、活動を展開させることができている。 ・プログラムが固定されないよう、子どもたちの選択の幅を広げるプログラムとなっている。 	活動内容が偏らないよう工夫しているが、児童の年齢や興味関心、特性に応じて、より幅広い活動を継続して検討していく必要がある。 今後も児童の意見や反応を取り入れながら、楽しみながら参加できる活動プログラムの充実に努めていく。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童の状況に応じて個別活動と集団活動を行うことができるよう努めている。 ・子どもの状況に応じてではあるが、個別活動と集団活動を組み合わせた計画を作成し、支援を行っている 	個別活動を中心とする場面が多くなることもあるため、児童の状況に応じて集団活動の機会や内容についてさらに工夫していく必要がある。 今後も児童一人ひとりが安心して参加できるよう配慮しながら、集団活動の充実に努めていく。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝情報共有を行い、その日の支援内容などについて確認を行っている。 ・3事業所での朝礼、事業所内での情報共有も毎日行っている。 ・午前中その日の状況等を報告し合い、対応している 	日々の打ち合わせや情報共有は行えているが、急な予定変更や利用児童の状況変化等により、支援内容の共有が十分に行き届かない場面もあるため、継続的な連携強化が必要である。 今後も職員間で共通理解を深めながら、より円滑な役割分担と支援体制づくりに努めていく。

21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎後などに児童の様子や支援方法について気付いたことを共有している。 ・送迎時間の関係上、翌日になることもあるが気になる点や疑問点についての共有が行われている。 ・その日の気づきについては報告し合う場を設けている。状況に応じて（送迎の遅延など）話し合いができない場もあるが、なるべくは共有の場を設けている。 	支援終了後の振り返りや情報共有は行えているが、送迎時間や勤務状況等により、その日のうちに十分な共有が難しい場合もあるため、継続的な情報共有方法の工夫が必要である。 今後も気づきや支援内容について職員間で共通理解を深めながら、より一貫性のある支援につなげていく。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・記録を取ることは意識できている ・支援記録は、内容等について支援の検証に繋げられる内容となっている 	支援記録については、記入の遅れや内容に差が見られることがあるため、記録の質と提出状況の改善が必要である。 今後は業務時間の調整や記録内容の確認を行い、日々の支援が適切に振り返りへつながるよう、記録の徹底に努めていく。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にモニタリングを行うことができ、その都度職員間でも情報共有を行うことができている。 ・適宜モニタリングや関係者会議が開催され共有もできている。 ・定期的にモニタリングを行い、見直しが必要な場面があれば、見直しを行なっている 	定期的なモニタリングや見直しは行えているが、日々変化する児童の状況や保護者様のニーズをより丁寧に反映できるよう、継続的な情報共有と支援内容の検討が必要である。 今後も職員間や関係機関との連携を図りながら、適切なモニタリングと支援計画の見直しに努めていく。
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流の機会の提供については今後地域施設を利用した交流なども取り入れていきたい。 ・行なっている。 	地域交流や地域活動への参加機会については十分に実施できていない部分もあるため、児童の状況や特性に配慮しながら、無理のない形で交流機会を検討していく必要がある。 今後も放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を意識しながら、バランスの取れた支援内容の充実を努めていく。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童に応じて自己選択しやすいような内容の提示や声掛けを行うようにしている。 ・人に決定を任せないよう声かけは必須で行っている。 ・自己選択は弊社の基本的な考えであるため、自己決定を大事にした支援を行っている 	自己選択や自己決定を大切にした支援を行っているが、児童によっては選択肢が多いことで迷いや不安につながる場合もあるため、一人ひとりの特性に応じた提示方法や支援の工夫を継続して行っていく必要がある。 今後も児童が自分で考え、選択する経験を積み重ねられるよう、安心して自己表現できる環境づくりに努めていく。
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童とよく関わり状況を理解している職員が会議へ参加している。 ・管理者や児童と信頼関係の深い職員が、情報をまとめ参加している。 ・基本、児発管が行っているが現場職員も参加できるような取り組みを始めている。 	関係機関との会議には、児童の状況を理解している職員が参加できるよう努めているが、勤務状況等により参加職員が限られる場合もあるため、会議内容の共有方法について継続して工夫が必要である。 今後も関係機関との連携を深めながら、児童の状況や支援方針について職員間で共通理解を図れる体制づくりに努めていく。
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関とは定期的なカンファレンスなどを行い連携を取っている。 ・外部の精神科医の助言や、モニタリング等の際には地域の学校とも児童に関する情報を共有できる関係を築きつつある。 	医療機関との連携は行えているが、地域の関係機関との連携体制については、より継続的かつ円滑に情報共有が行えるよう強化していく必要がある。 学校や関係機関との連携についても、児童の状況に応じてより密な情報共有や協体制づくりを進めていく必要がある。 今後も地域の関係機関との連携を深めながら、児童にとって一貫性のある支援につなげていく。

28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報についてはスクリレを使用したり、保護者と連絡を取り確認を行っている。 ・学校によってスクリレ登録で行事等の把握をしている。保護者とはLINEでの送迎時間の調整等、必要なやりとりができています。 ・スクリレなど利用し、連絡調整を適切に行うようにしている。 	<p>学校との情報共有や連絡調整は行っているが、学校ごとに連絡方法や情報共有の頻度に差があるため、より円滑な連携体制づくりが必要である。</p> <p>送迎時間の変更や急な予定変更等についても、保護者様・学校双方と迅速に共有できるよう、継続して連絡体制の工夫を行っていく必要がある。</p> <p>今後も学校や保護者様と連携を図りながら、児童が安心して利用できる支援体制づくりに努めていく。</p>
29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・必要であれば就学前に利用していた施設等との関係者会議を設定している。 ・就学前に利用していた場との情報共有は行っていない。対象となる子どもがいない。未就学では利用はせず、就学前に受給者証の発行などの対象者が多い。 	<p>就学前施設との連携が必要となるケースは限られているが、必要時にはより円滑な情報共有や相互理解が行えるよう、連携体制を継続して整えていく必要がある。</p> <p>今後も対象児童の状況に応じて、関係機関との情報共有や引継ぎを適切に行えるよう努めていく。</p>
30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	3	<ul style="list-style-type: none"> ・対象児童なし ・必要に応じて、支援内容や児童の状況について関係機関と情報共有が行えるよう努めている。 	<p>現状として、学校卒業前に放課後等デイサービスの利用終了となるケースが多く、障害福祉サービス事業所等への移行支援につながる機会は限られている。</p> <p>今後、移行支援が必要なケースについては、関係機関との連携や情報提供を円滑に行えるよう体制整備に努めていく。</p> <p>必要に応じて、卒業後の支援先との情報共有や引継ぎを適切に行えるよう対応していく。</p>
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	3	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の案内等があれば適宜参加できている。 	<p>地域の児童発達支援センターとの継続的な連携や、スーパーバイズを受ける機会については十分に実施できていないため、今後連携体制の構築を検討していく必要がある。</p> <p>必要に応じて助言や研修を受けられる機会を増やし、支援の質向上につなげていく。</p>
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	3	<ul style="list-style-type: none"> ・公園活動等を通して、地域の中で安心して過ごせる機会づくりに努めている。 	<p>放課後児童クラブや児童館との継続的な交流機会については十分に実施できていないため、児童の特性や希望に配慮しながら、無理のない形で交流機会を検討していく必要がある。</p> <p>現在は公園活動等が中心となっているが、今後は地域施設の活用や交流の場についても検討を進めていく。</p> <p>児童館等との交流については、児童本人の意向も大切にしながら、安心して参加できる環境づくりに努めていく。</p>
33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	0	3	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて地域の情報収集を行い、関係機関との連携について確認を行っている。 	<p>(自立支援) 協議会等への参加については十分に行っていないため、開催情報の把握や参加機会の確保に努めていく必要がある。</p> <p>今後は地域の関係機関との連携強化や情報共有のため、協議会等へ積極的に参加できる体制づくりを進めていく。</p>
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時などに保護者と児童の情報を共有したり、日頃から連絡を取り合いながら児童の状況について共通理解できるよう努めている。 ・送迎時や事業所訪問の際には児童の様子や近況をお話するよう努めている。 ・適宜、子どもの状況を保護者へ伝えあい共通理解を持つよう心がけている 	<p>日頃から情報共有に努めているが、送迎時のみでは十分にお伝えしきれない場合もあるため、必要に応じて面談や連絡ツール等を活用しながら、より丁寧な情報共有を行っていく必要がある。</p> <p>今後も保護者様との共通理解を深めながら、児童の成長や課題に応じた支援につなげていく。</p>

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	3	・送迎時や面談等を通して、保護者様からの相談対応や情報共有を行っている。	家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や保護者向け研修については、現状十分に実施できていないため、今後実施方法や情報提供の在り方について検討していく必要がある。 保護者様が参加しやすい形での情報提供や学びの機会づくりについて、今後の課題として取り組んでいく。
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0	・契約時や保護者から質問等があった場合には、適宜説明することができている。 ・契約時に丁寧に説明を行なっている。 また、疑問等があればいつでも問い合わせできる環境を整えている	契約時に説明を行っているが、利用開始後に新たな疑問や不安が生じる場合もあるため、継続的に分かりやすい説明や情報共有を行っていく必要がある。 今後も保護者様が安心して利用できるよう、丁寧に理解しやすい説明に努めていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	0	・モニタリング等で保護者への情報共有や話を聞き、児童や家族の意向を反映できるように努めている。 ・対応できる内容については、職員間で協議し意向に添える対応を考えている	保護者様や児童の意向確認は行えているが、児童本人の気持ちや自己決定をより丁寧に支援計画へ反映できるよう、継続して関わり方や聞き取り方法を工夫していく必要がある。 今後も児童や家族の思いを大切にしながら、職員間で共通理解を図り、最善の利益を意識した支援計画作成に努めていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3	0	・随時了承を得ている。 ・説明を行い、同意を得るようにしている	放課後等デイサービス計画について説明し同意を得ているが、保護者様によって理解しやすい説明方法や必要な情報量が異なるため、より分かりやすい説明方法について継続して工夫していく必要がある。 今後も保護者様と共通理解を深めながら、安心して支援につなげられるよう丁寧な説明に努めていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3	0	・家族からの相談については都度応じており、必要に応じて面談も行っている。 ・相談があれば十分な時間と場所を取り傾聴することができている。 ・子育ての悩みについては、適切に面談の時間を取るようにし、助言や支援を行っている	保護者様からの相談には適宜対応しているが、相談内容によっては継続的なフォローや関係機関との連携が必要となる場合もあるため、支援体制の充実を継続して行っていく必要がある。 今後も保護者様が安心して相談できる環境づくりを大切にしながら、丁寧な対応と必要な助言・支援に努めていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	3	・送迎時や面談等を通して、保護者様同士の情報交換につながるような関わりや情報共有に努めている。	現在、保護者会やきょうだい児同士の交流機会については十分に実施できていないため、保護者様のニーズも踏まえながら、今後の実施方法について検討していく必要がある。 保護者様同士が安心して交流できる場づくりや、家族支援の充実について継続して検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	0	・苦情があった場合にはすぐに共有し対応するよう努めている。 ・苦情があった場合は、速やかに職員で共有できる体制を整えている。 ・苦情・要望があった際には迅速に対応するよう心がけている	苦情やご意見については迅速な対応を心掛けているが、保護者様がより相談しやすい環境づくりや、対応後の振り返り・再発防止について継続して取り組んでいく必要がある。 今後も職員間で情報共有を徹底し、安心して相談やご意見をいただける体制づくりに努めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3	0	・SNSやラポ便りなどで活動の様子を定期的に発信している。 ・毎月ラポ便りを配信し活動の様子や行事予定を知らせている。LINEによる活動写真の提供もできている。 ・定期的に通信を発行している	通信やSNS等を通して情報発信を行っているが、保護者様によって確認しやすい方法に違いがあるため、より分かりやすく伝わる情報発信方法について継続して工夫していく必要がある。 今後も活動内容や児童の様子が伝わりやすい情報発信を心掛け、保護者様との共有を深めていく。

43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いに関しては十分留意し、鍵付きの棚に保管するなど適切に管理されている。 ・鍵付きの棚に保管し、児童の出入りを禁止している場所に設置している。 ・鍵付き保管庫を利用し、個人情報の扱いには十分留意している。 	<p>個人情報の管理については十分留意しているが、情報管理に関する意識や対応方法について、継続的な確認や研修を行っていく必要がある。</p> <p>今後も個人情報保護の重要性を職員間で共有し、適切な管理体制の維持に努めていく。</p>
44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・電話対応だけでなくLINEなどを活用したりするなど保護者が情報伝達しやすい方法に合わせて対応している。 ・時間や場所を問わないよう、LINEを有効活用している。 ・配慮するよう心がけている 	<p>保護者様や児童に応じた情報伝達方法を心掛けているが、特性や状況によって伝わりやすい方法が異なるため、今後も一人ひとりに合わせた配慮や伝達方法の工夫を継続していく必要がある。</p> <p>今後も安心して相談や情報共有ができるよう、丁寧で分かりやすいコミュニケーションに努めていく。</p>
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流について、児童が安心して参加できる方法を検討しながら支援を行っている。 	<p>地域住民を招待した行事等については実施できていないため、児童の安全面や個人情報保護に配慮しながら、地域との交流機会について今後検討していく必要がある。</p> <p>閉鎖的な運営とならないよう、地域との関わり方について継続して検討し、無理のない形で地域に開かれた事業運営につなげていく。</p> <p>今後も児童一人ひとりの状況に配慮しながら、安心して参加できる地域交流の在り方を検討していく</p>
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訓練を実施している。 	<p>各種マニュアルの整備や共有は行っているが、実際の場面を想定した訓練については十分に実施できていない部分もあるため、継続的な訓練機会の確保が必要である。</p> <p>今後は職員だけでなく、保護者様にも訓練実施状況や安全対策について分かりやすく周知できるよう取り組んでいく。</p> <p>緊急時に迅速かつ適切な対応が行えるよう、定期的な訓練や振り返りを継続して実施していく。</p>
47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害の発生に備えて職員と児童も含めて避難場所の確認を行ったりして訓練を行っている。 ・必要な訓練は行うようになっている 	<p>避難訓練等については実施しているものの、実施頻度や内容に不足があるため、今後は年間計画に基づいた定期的かつ実践的な訓練実施が必要である。</p> <p>災害発生時に迅速な対応が行えるよう、職員間での役割確認や訓練後の振り返りを継続して行っていく。</p> <p>今後もBCPの内容確認や見直しを行いながら、安全対策の強化に努めていく。</p>
48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に児童の状況について職員間でも共有を行い、保護者ともその都度連絡を取り合いながら様子をお伝えするなどの対応を行っている。 ・アセスメント等で児童の情報は収集し、万が一のための対応も保護者から共有いただいている。 ・事前に保護者からの情報を確認し、職員間にて共有している 	<p>児童の健康状態や服薬、てんかん発作等に関する情報共有は行っているが、状況変化があった際に迅速かつ確実に職員間で共有できる体制について、継続的な確認と強化が必要である。</p> <p>今後も保護者様との連携を密に行いながら、緊急時対応を含めた安全管理体制の充実に努めていく。</p>
49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーがある児童に対しては成分表を確認したりしてアレルギー発作が出ないよう気をつけている。 ・提供する食品の成分表示を取り置き、必要に応じて確認する体制が取れている。 ・食物アレルギーのある児童については共有を行い、対応している。 	<p>食物アレルギーに関する情報共有は行っているが、医師の指示書等については十分に確認・共有できていない場合もあるため、今後は必要に応じて確認体制の整備を進めていく必要がある。</p> <p>緊急時対応についても、より安全に対応できるよう職員間での共通理解や対応確認を継続して行っていく。</p>

非常時等の対応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理については職員間でも確認を行いながら十分留意している。 ・安全計画をもとに必要な研修、訓練を行うように努めている ・安全管理については十分に注意しながら支援を行っている 	安全管理については日頃から留意しているが、緊急時対応や事故防止に関する研修・訓練について、継続的かつ実践的に実施していく必要がある。児童の特性や活動内容に応じた安全配慮について、職員間での共通理解をさらに深めていく必要がある。今後も安全計画に基づき、安心して過ごせる環境づくりと安全管理体制の強化に努めていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてご家族へ連絡を行い安全確保に努めている。 ・必要に応じて周知。保護者とのやりとりも行っている。 ・安全計画については保護者へ通知を行っている 	安全計画に基づく取り組みについて保護者様への周知は行っているが、訓練内容や安全対策について、より分かりやすく継続的に情報共有していく必要がある。今後も保護者様と連携を図りながら、安心して利用いただける安全管理体制づくりに努めていく。緊急時対応や安全対策について、保護者様へ理解を深めていただけるよう周知方法の工夫を継続して行っていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットがあった際には事業所内で事業所内で共有し、再発防止に向け話し合いを行っている。 ・該当事故があればヒヤリハットの記載と職員への周知、場合によっては会議を開き再発防止へ努めている。 ・ヒヤリハットについては必ず共有し、再発防止に向けて検討を行なっている 	ヒヤリハット発生時には共有や再発防止の検討を行っているが、職員によって報告内容や記録の詳細に差が出る場合もあるため、継続的な記録方法の統一や意識向上が必要である。今後もヒヤリハット事例を職員間で共有し、事故防止や安全意識の向上につながるよう継続して取り組んでいく。再発防止策について、実施後の振り返りや改善確認を継続して行っていく必要がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・社内研修を定期的に行い参加している。 ・事業所内研修を行い記録として残している。 ・虐待防止研修については全体や市で開催している研修に必ず受けるよう対応している 	虐待防止に関する研修は実施できているが、職員の経験年数や理解度に差が出ないよう、継続的な学びや振り返りの機会を確保していく必要がある。日々の支援の中でも権利擁護や適切な関わりについて職員間で確認し合いながら、虐待防止への意識向上に努めていく。今後も研修内容の充実や事例共有を行い、適切な支援につながる体制づくりを継続していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・対象児童はいないが身体拘束について研修を行い、やむを得ず身体拘束を行う場合についての過程についても確認している。 ・事業所内研修を行い研修記録として残している。 ・対象児童なし。 	現在、身体拘束が必要となる対象児童はいないが、緊急時に適切な対応が行えるよう、職員間で身体拘束適正化に関する理解や対応手順の共有を継続して行っていく必要がある。今後、やむを得ず身体拘束が必要となる場合には、保護者様への十分な説明と同意、支援計画への明記を適切に行えるよう体制整備を継続していく。引き続き、身体拘束を行わない支援を基本としながら、権利擁護の視点を大切にしたい支援に努めていく。